

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 文学研究科の理念と目的を共有化し、適切性を点検・検討するための全教員による会を定期的に開催する。	→会の開催実績と記録	B	C	/	/	/
2. 文学研究科の理念と目的について、教員・学生への周知徹底を図る。	→学生による授業評価アンケートによる認知度調査	B	B	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。 (理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→ ● 理念・目的を設定している ○ 理念・目的を設定していない (理念・目的) 人文科学への深い学識に裏付けられた人間形成と、卓抜した水準における学術研究を通じた社会への貢献を目的とする。そのためには、人文科学の領域において、現代の高度な学問の進展に応じた研究を推進し、人格を陶冶するとともに、その研究の成果を学界、教育界、一般社会に還元することが必要である。具体的には、それぞれの学術領域に大きな貢献をなす専門的研究者を養成すること、高い専門性を活かして実社会の様々な場所で活躍することのできる高度専門職業人を養成すること、そして知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人間を育成すること、のそれぞれを重視する。また、専攻ごとの目標および三専攻に共通する目標も設定されている。 (説明) 2007年度の専攻再編に至る経緯、学則化の過程の中で、教員には浸透しているが、その後、毎年確認をしているわけではないので、新任教員への周知は徹底しているとはいえない面もある。学生への周知については、特に機会を設けていないが、4月の新生ガイダンス時には、研究科委員長、教務学生委員、教務学生副委員長から、理念、目的を含んだ「大学院生としての研究態度」について説明する時間を設けている。	
	★ 小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 周知・公表している ○ 周知・公表していない (説明) 大学院学則に明記されている。これを根拠とするアドミッション・ポリシーや入試広報、大学ホームページ等を通じて広く社会に公表されている。
	小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ○ 検証している ● 検証していない (説明) 適切性については、学則に明記してのち入試要項の作成等を通じて、執行部教員によって検討はされているが、教職員全体の議論とはなっていない。定期的な検証、検討は行っていない。学部と同様に、今後、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの設定が急がれる。(意見交換後、削除)
その他		

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価
 卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
 卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
 理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

その他 (自由記述)	
------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○研究科の理念・目的を検証する全教員の会の定期的開催、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの設定が望まれます。

【学内委員】

○理念と目的の共有化のためにさまざまな取り組みが行われていることは評価できます。ただ、その成果を確かめることが重要ですから、その方法についても考えていただきたいと思います。

○設定された機会以外に、担当教員によって研究者の始まりである院生には理念、目的を十分に理解させることが望まれます。新任教員にも先輩教員が説明することが望まれます。

○小項目0.0.1における説明は、小項目0.0.2における内容です。

○本項目は、理念・目標の項目です。従って、小項目0.0.2、0.0.3の記述におけるアドミッション・ポリシーやディプロマ・ポリシーについては、それぞれ「5学生の受け入れ」「6.1教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」で記述してください。

○学科ごとの目標、学科に共通する目標を設定されていることは評価されます。

○周知については大変難しい課題ですが、有効性を測る方法を検討され、継続した努力と検証に期待します。

○理念・目的はWEB上でも公表されていますので、これについても触れておいてください。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》小項目0.0.1の（理念・目的）、（説明）の現在の記述を改め、以下のとおりとする。

（理念・目的）人文科学への深い学識に裏付けられた人間形成と、卓抜した水準における学術研究を通じた社会への貢献を目的とする。そのためには、人文科学の領域において、現代の高度な学問の進展に応じた研究を推進し、人格を陶冶するとともに、その研究の成果を学界、教育界、一般社会に還元することが必要である。

（説明）具体的には、それぞれの学術領域に大きな貢献をなす専門的研究者を養成すること、高い専門性を活かして実社会の様々な場所で活躍することのできる高度専門職業人を養成すること、そして知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人間を育成すること、のそれぞれを重視する。また、専攻ごとの目標および三専攻に共通する目標も設定されている。

★小項目0.0.2の説明について現在の記述を改め、以下のとおりとする。

（説明）2007年度の専攻再編に至る経緯、学則化の過程の中で、教員には浸透しているが、その後、毎年確認をしているわけではないので、新任教員への周知は徹底しているとはいえない面もある。学生への周知については、特に機会を設けていないが、4月の新入生ガイダンス時には、研究科委員長、教務学生委員、教務学生副委員から、理念、目的を含んだ「大学院生としての研究態度」について説明する時間を設けている。

小項目0.0.3の説明について 該当箇所に示したとおり、一部記述を削除する。